

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第5区分
 【発行日】平成19年3月22日(2007.3.22)

【公開番号】特開2006-57226(P2006-57226A)
 【公開日】平成18年3月2日(2006.3.2)
 【年通号数】公開・登録公報2006-009
 【出願番号】特願2004-270534(P2004-270534)
 【国際特許分類】

A 4 1 D 3/04 (2006.01)

【F I】

A 4 1 D 3/04 B

【手続補正書】

【提出日】平成19年1月19日(2007.1.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

スクーター、バイク、自転車等雨天時に使用するカバーで、運転者の着地する足に当る底の部分を除き、ハンドル部の一部あるいは全体と運転者の全身を覆うカバーを運転者の上半身を覆う上部カバーと運転者の下半身を覆う下部カバーに分割し、上部カバーは自転車のサドル、スクーター等の腰掛部に固定軸を設け、カバーを円周にジャバラを構成するようにいくつか分割し、アーチ状に運転者を覆い、不使用時は人力車の帆のように後方に折り込み収納できる構造とし、下部カバーも自転車のサドル、スクーター等の腰掛部に固定軸を設け、運転者の脚側面を扇状に覆うように下部カバーを分割構成し、不使用時は扇子のように後方に折り込み収納できる構造で、したたり落ちる雨滴を前または後ろに導くように下部カバー裾部には溝を設けたことを特徴とするスクーター、バイク、自転車用の防雨カバー。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】スクーター、バイク、自転車用防雨カバー

【技術分野】

【0001】

本考案は、雨天時スクーター、バイク、自転車に利用する防雨カバーに関する。

【背景技術】

【0002】

従来のバイク、スクーター、自転車の防雨用として雨具が主流であるが、一体型の着衣であったり、上下の着衣であったりしている。雨具は着替え等が面倒で、特に雨具が身体に密着するため、その雨の濡れた感じが伝わり、不快感を覚える。そこで全体を覆う防雨カバーを車体に形成したものが考案されている。しかし通常走行時に風の抵抗があり、危険なため、この欠点をカバーする組み立て式の屋根のようなカバーがある。しかしこれらは横からの雨に対応できない欠点をもつ。雨天時にのみ装着するカプセルカバーを考案して

も持ち運びができないため、不測の雨に対応できない。いままで様々な防雨カバーが考案されているが、雨具に代わる便利な防雨カバーは普及していない。また雨具の着替えの煩わしさから自転車では傘をさしての運転がいまだに続いていて危険である。またただ覆うだけの防雨カバーではカバーや雨具を伝い、雨滴が滴り落ちるため、どうしてもズボン等の裾、靴等が濡れやすい。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

雨具着用では雨具が身体に密着するため、その雨で濡れた感じが身体に伝わり、不快を感じる。また車体に取り付けた全体を覆う防雨カバーは風に対する抵抗があり、通常走行に支障がある。組み立て式の屋根のようにした防雨カバーは横からの雨に対応できない欠点がある。このためスクーター、バイク、自転車の防雨用に雨具が主流となっているが、雨具の着替えの煩わしさや着用時の不快さがあり、自転車においては傘をさしての運転が耐えない。雨具着用の欠点をなくすため全体を覆うような防雨カバーにし、日常走行に支障をきたさない、不測の雨に備え、持ち運びが可能な簡単にセットできる防雨カバーを考案する。一般に考える防雨カバーではそのままの構造だとカバーを伝い雨滴が滴り落ちるため、どうしてもズボン等の裾、靴等が濡れやすい。滴り落ちる雨滴を前後に導く溝を設け、ズボン等の裾、靴等が濡れないようにする。

【課題を解決するための手段】

【0004】

雨具の不快感をなくすには運転者と雨具との間に多少空間を設けるとその不快感は除去される。請求項1で、運転者の着地する足に当る底の部分を除き、ハンドル部の一部あるいは全体と運転者の全身を覆うカバーを運転者の上半身を覆う上部カバーと運転者の下半身を覆う下部カバーに分割し、上部カバーは自転車のサドル、スクーター等の腰掛部に固定軸を設け、カバーを円周にジャバラを構成するようにいくつか分割し、アーチ状に運転者を覆い、不使用時は人力車の帆のように後方に折り込み収納できる構造とし、下部カバーも自転車のサドル、スクーター等の腰掛部に固定軸を設け、運転者の脚側面を扇状に覆うように下部カバーを分割構成し、不使用時は扇子のように後方に折り込み収納できる構造のカバーにする。これにより雨具着用の不快感を解決し、カバーは積載し持ち運びができ、随時に使用できる、通常走行時は折り込み使用することで従来どおり支障がなくなるので車体に取り付けた全体を覆う防雨カバーの問題も解決できる。雨天で風の強い時は折り込み、雨具着用するなどの方法でいろいろな条件に対処できる。

【0005】

足が着地する下部カバーの裾部分をU字型に折り返すことにより、雨具に伝わり落ちる雨水を前または後に導き、ズボンの裾、靴等が濡れるのを防ぐようにできる。

【発明の効果】

【0006】

よって、本発明のカバーにより、従来の雨具の使用時の不快感は解消できる。請求項1で折りこみ式にすることにより、持ち運びが簡単で、随時使用でき、通常走行時には支障がなく、雨天時には雨具より便利で快適に使用できる。特に自転車での傘をさしての運転を減らすことが可能になる。下部カバーの裾部分をU字とするので、カバーに伝わり落ちる雨水を前または後に導き、ズボンの裾、靴等が濡れるのを防ぐことができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

請求項1において、雨具の不快感をなくすには身体と雨具との間に多少空間を設けるとその不快感は除去される。そのためハンドルと運転者を覆うカバーを考える。しかし、ただ覆うだけのカバーだと簡単に持ち運びできず、必要なときすぐに使えない。そこでカバーを持ち運びができ、また雨天時に簡単に使えるようにするため、カバーを何等分かに分割してサドルまたは、バイクの腰掛部分に固定軸を設け、人力車の幌や扇子のように円周状に広げたり折り込めたりする構造にする。それぞれのジャバラ部分は広げたときに引っ掛

け部分を作るかラチェット等を使うことにより、カバーどうし固定でき、必要な大きさのカバーに構成すれば、図4のように背中にかかる部分を開け、扇形のまま、前後に移動することもできるので、乗り降り時の不便さを解消する。折り込みカバーはバンドまたは金具により腰掛部分に固定することは技術的には可能である。使用しないときは荷台の方向に折り込んでバンドなどで止めることで持ち運びでき必要なとき随時使用することができる。雨天時使用するとき、人力車の幌のようにジャバラを引っ張り広げるが、そのままだと風などで煽られる。そのため引っ張った先を車体前部とハンドル下の前部カバー止め部品で止める。ジャバラは運転者の上半身とハンドル部を覆うものと、腰から下、足の部分を囲うようにしたものに分けて作るが、足の部分を覆うカバーはサイドからの雨をカバーし、先端部は前からの雨をカバーできるようにするので固定軸は同一か、もしくは半径に応じて支点をずらし、別にすることでそれぞれ覆うことができる。このようにいろいろな対策があり技術的にも既存のもので十分解決でき実施可能である。

【0008】

前方の視界をよりよく見渡せるようにするためにフロントガラスに当たる部分のカバーを高度の透明な合成樹脂を利用すれば最良の形態になる。カバー材料はビニール、ポリエチレン、ポリプロピレンなどの合成樹脂材を使うと転倒しても破損しない、十分な強度もあり、頻繁な開閉に耐え、複雑な形が成型できる。ともに風に対する抵抗が大きいので強い風があるときはたためる、折り込めるので、危険は回避できる。ある程度の風に十分使えるように流線型に設計することで、風の大きさ、雨の量などその場に適した使い方ができる。

【産業上の利用可能性】

【0009】

本発明による防雨カバーは、工業的に量産する事が可能であるため、産業上の利用可能性を有する。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明に係る、請求項1の防雨カバーのうち、スクーターを例に、上部、下部カバーを腰掛部に固定したものを等角図で図示したもの。

【図2】本発明に係る、請求項1の防雨カバーのうち、スクーターを例に、上部、下部カバーを半開きにした状態を等角図で図示したもの。

【図3】本発明に係る、請求項1の防雨カバーのうち、スクーターを例に、上部、下部カバーを雨天時に使用した状態を等角図で図示したもの。

【図4】本発明に係る、防雨カバーのうち、スクーターを例に、乗り降りを楽しむため、折り込み式カバーの背中部を使わない状態をキャビネット図で図示したもの。

【符号の説明】

【0011】

- 1 上部カバー
- 2 下部カバー
- 3 上部カバーの背中部分用
- 4 カバー固定軸
- 5 必要なときに透明度の高い材質のウィンドウ
- 6 上部カバー前部止め部品
- 7 下部カバー前部止め部品
- 8 上部カバー、下部カバー車体固定部品
- 9 流れてきた水が濡れないようU字型にした部分
- 10 ジャバラ引っ掛け部

【手続補正3】

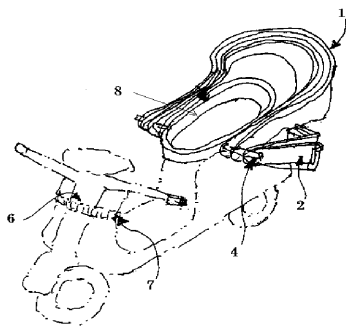
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

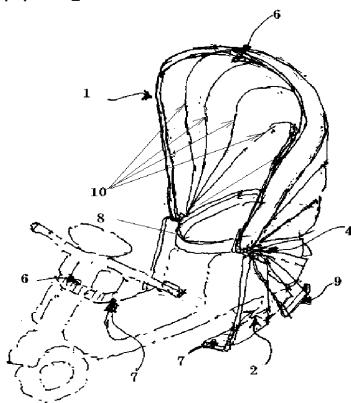
【補正方法】変更

【補正の内容】

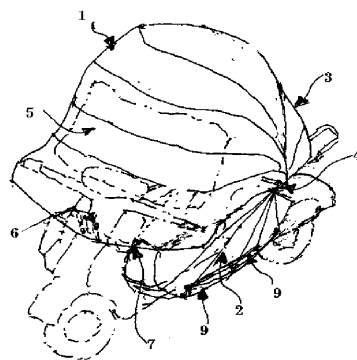
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

